

## Trimble S6 ロボティックと出会えた喜び

### 数々のロボティックシステムを利用してきた歴史と Trimble S6

『有限会社ツカサ測量事務所は、1994年(平成6年)の開業後直ぐにロボティックトータルステーションを購入し、現在まで一人で現場をこなしてきました。そのツカサ測量事務所の歴史の中で、3台の自動追尾型トータルステーションを使用して参りましたが、それらはトリンプル製ではない自動追尾トータルステーションでした。Trimble S6への買い替えの理由はそれまで使っていた自動追尾型トータルステーションが故障等で具合が悪くなった訳ではなく、ある日Trimble S6シリーズのビデオカタログを見る機会があり、その優れた性能を見てTrimble S6への買換えを決意しました。スムーズなモーターの動きや、ワンマン測量での必須条件である高い追尾性能に引き込まれました。Trimble S6ロボティックを初めて使った際の感想は、無駄な動きがかなり減ったということです。今までの自動追尾型トータルステーションでは、サーチまでの時間やミラーの動きの制約、観測の手順などから生じる無駄な動きが多かった事に気づきました。これらを減らせたことで、作業スピードは大きくアップしています。また、現場をこなしながら完全にTrimble S6の使い方を覚えるのに、多い日数を必要としなかったのを感じています。以前使っていた他社機では1か月程掛かりましたから、Trimble S6は現場のことを考えて作ってくれていることが良く分ります。』



Trimble S6ロボティックが相棒と語る樋口様

### 横断観測でのデータ連携が一番の効率化のポイント

『本日(取材をさせて頂いた日)の現場は、有明海に注ぐ矢部川における河川工事の為の横断測量観測でした。このような横断観測では、堤防を登ったり降りたり、右岸で観測したり左岸で観測したりしなければならず、効率的に作業を行うには、断面ごとに観測することに縛られたくありません。Trimble S6に搭載された横断観測プログラムはこれらの制限がなく、ミラーの都合に沿って断面や断面右左を任意に選択して観測出来ることから、無駄な動きは一切無くなりました。これまで使っていた他社の自動追尾型トータルステーションでは、あくまでも放射観測で横断を観測していたので、比べものにならないくらい効率が上がりました。使用している測量CADシステムはニコン・トリンプルから提供されているソフトウェアで、Trimble S6に搭載されている平面観測、測設、横断観測とのデータ連携が素晴らしく、事務所でのデータ処理に要する時間も半分以下になりました。これも他社の自動追尾型トータルステーションでは成しえなかった事です。』

### Trimble S6 を使いはじめてから業績がアップ!

『Trimble S6を使い始めてから、以前のトータルステーションを使っていた時と比べて倍以上の仕事をこなしています。会社の売上額もTrimble S6導入後から確実に上がっています。これは多くの測量現場を掛け持ちし、数多くの業務をTrimble S6を利用し、こなせている結果からだと思っています。私の記事をご覧いただいている方で、仕事がある方・仕事が多過ぎて困っている方は、Trimble S6を導入すべきだと思っています。現場と内業の効率がまったく違います。』

Trimble S6ロボティックを使って、たくさんの現場作業で成果を提供したいというお気持ちから、是非お仕事をご紹介下さいとの事です。ツカサ測量事務所様の名刺には、「I owe what I am today to you.」とメッセージが刻まれています。訳は、「現在の私があるのは貴方のおかげ」となります。Trimble S6と出会えたこと、そして、よりたくさんの人たちとの信頼関係がTrimble S6を使用する事によって築けた事が幸せであると、にこやかに語ってくださいました。(編集部)



有明川にそそぐ、矢部川のロボティック横断測量の様子

